

諏訪の景気動向

2020年11月

(2020年10月末D・I調査)



八島湿原(下諏訪町)

《2020年11月25日》

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

電話 0266-23-4567(代) FAX 0266-23-8044

諏訪地方の景気動向（2020年10月調査）

「2020年10月アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方197社のご協力を得て行った2020年10月の「景気動向調査(DI調査)」は、回答全社の「3ヵ月前」と比べた業況判断DIが15.8だった。前回調査時(2020年7月末、以下同)の△35.3から51.1ポイント改善し、2018年10月調査以来、7期ぶりのプラス水準となった。ただ、前回調査時の落ち込みの反動があり、新型コロナウイルス感染拡大前の水準は下回っている。前年同月比は前回の△67.9から△47.7へやや改善した。「3ヵ月前」と比べた製造業の業況判断DIは9.5で、前回の△43.8から改善した。非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIも26.7で、前回の△19.7から改善した。「3ヵ月後」の業況予想DIは製造業が1.5(前回△23.9)と改善し、非製造業も△15.5(前回△36.3)と改善して、回答全社では△4.5(前回△28.3)となった。

製造業は、中国をはじめとする海外経済の回復などから、自動車や5G関連などで受注増加の動きが進んだ。また、政府の観光需要喚起策のGoToトラベルで除外されていた東京が10月から支援対象に含まれ、観光客が増加した観光・サービス業の回復も大きい。ただ、足もとでは、全国的に新型コロナウイルスの感染が再び拡大する傾向で、先行きへの不安から慎重姿勢の企業も多い。

製造業は「3ヵ月前」との比較で、業況は36.5%の企業が好転し、27.0%の企業が悪化した。前回まで他業種がわずかながら改善傾向を見せる中で、製造業は悪化傾向が止まらなかったが、大幅に改善した。「前年同期比」の業況判断DIは、前回の△71.9から△58.8とやや改善した。受注状況DIも「3ヵ月前」に比べて前回の△51.2から今回は11.9とプラス水準となった。「前年同期比」では前回の△72.8から△66.7へやや改善している。悪化傾向が続いていた収益性DIも「3ヵ月前」に比べ、前回の△43.0から△1.6へ改善した。ただ、企業間に格差があり、米中貿易摩擦や米国の大統領選の行方などを危惧する企業もある。それでも「3ヵ月後」の業況予想DIは、前回の△23.9から1.5へ改善し、総体的には回復の兆しが見られる。

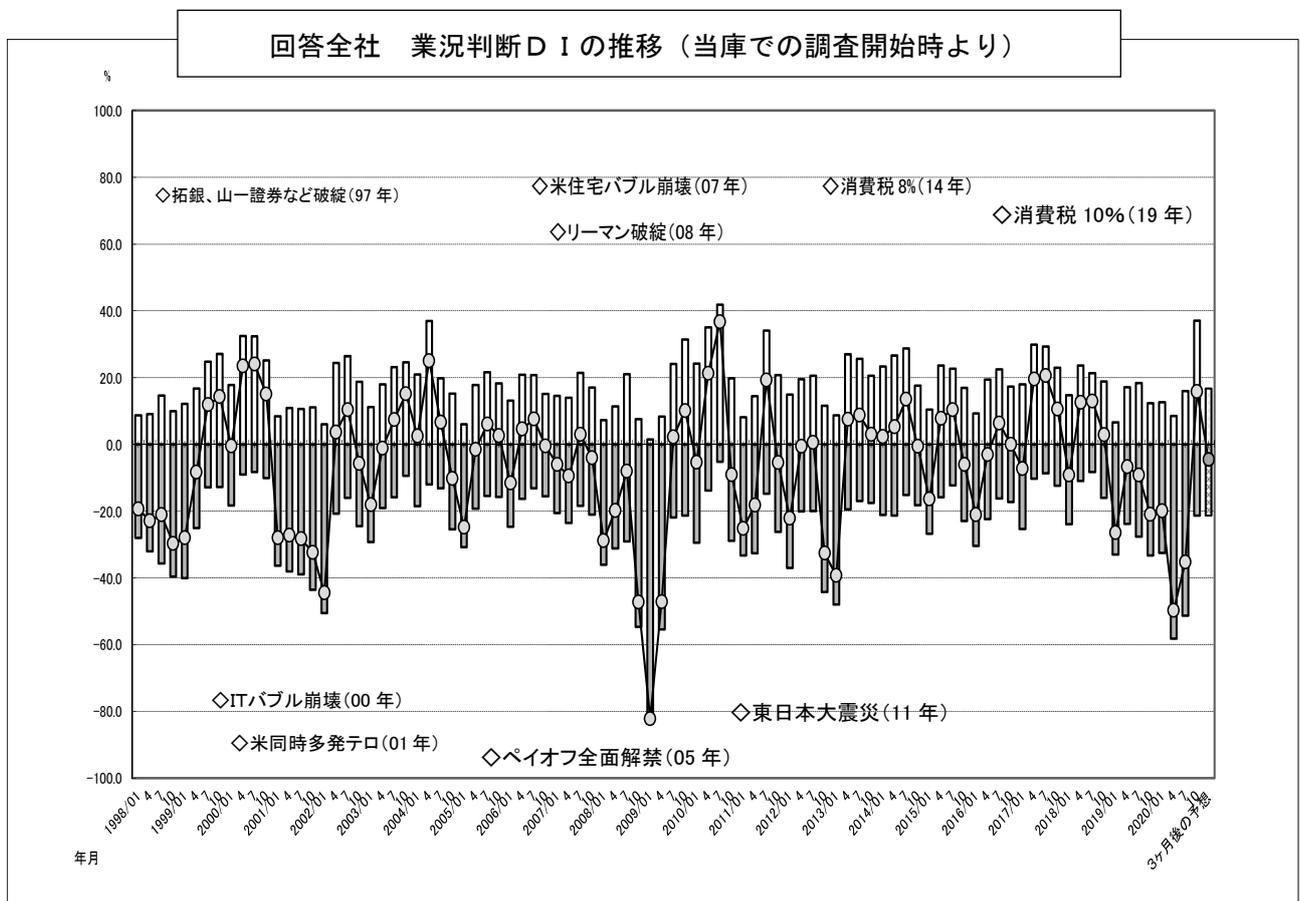
商業は、経済活動再開の動きで需要の持ち直しが見られるが、新型コロナウイルスの影響による明暗がある。「3ヵ月前」と比べた業況判断DIは23.5で、前回の△34.3から改善しプラス水準となった。来店客数DIも前回の△34.3から23.6と改善した。「前年同期比」では、業況判断DIが前回の△65.7から△29.4、来店客数DIは前回の△62.9から△44.1へ改善したが、まだマイナス幅が大きく前年並みには至っていない。食料品や家電、園芸用品などのステイホーム需要や各種プレミアム商品券の利用が堅調な半面、宴会や大人数を集客しないと業績が上がらない飲食業などは苦戦を強いられている。「3ヵ月後」の業況予想DIは、好転が17.6%で、悪化は20.6%の△3.0となり、前回の△37.1から改善している。

観光・サービス業は「3ヵ月前」と比べて、前回45.4でプラスに転じた宿泊客数DIは今回53.8に伸び、業況判断DIは前回の9.1から76.9へ大幅に改善した。「前年同期比」の業況判断DIも、前回は好転企業がなく△100だったが、△38.5へ改善している。久しぶりに各地の観光地がにぎわいを見せた。東京が追加されたGoToトラベルの影響が大きく、ホテルや旅館は比較的グレードが高い部屋が人気で、都内からの予約が例年の倍となっている施設もある。しかし、一時的な需要増であり、新型コロナウイルスの懸念の中で、忘年会などで大人数

の宴会が見込みにくい年末年始にかけては厳しい見方が多く、「3ヵ月後」の業況判断予想DIは△53.8で前回の△36.4から悪化している。

建設業は、「3ヵ月前」と比べた業況判断DIは4.2で前回の△10.0から改善した。受注状況DIは△4.1で前回の△20.0から改善している。「3ヵ月後」の業況判断DIは△12.5で、前回の△35.0から改善した。諏訪地方の2020年9月の新設住宅着工戸数は77戸で、前年同月比14戸減少(△15.4%)した。2020年4月～9月の累計着工戸数は578戸で、前年同期比49戸減少(△7.8%)した。2020年10月の市町村からの受注工事は合計68件598百万円で、前年同月比で件数は19件減少し、契約金額は11百万円減少した。2020年4月～10月に地元業者が受注した国県関係の公共工事の累計は93件5,762百万円で、前年同期より5件218百万円増加(3.9%)している。

雇用状況は、2020年9月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を0.50ポイント下回り、前月を0.01ポイント下回る1.02倍だった。1倍台は78ヵ月連続で維持しているが、前年同月は18ヵ月連続で下回った。長野県内は1.00倍で、3ヵ月ぶりに1倍台を回復した。全国は1.03倍で、6年9ヵ月ぶりの低水準。諏訪地方は、新規求人数(全数)が1,449人で前年同月比4人増加(0.3%)し、新規求職者数は790人で前年同月比85人増加(12.1%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、生活関連サービス・娯楽業で105.1%、医療・福祉業で30.2%増加したが、飲食店・宿泊業で29.4%減少した。1件10人以上の人員整理は0件だった。事業主都合による雇用保険資格喪失者は27人で、前年同月より4人減少し、前月より1人増加した。



新型コロナウイルス感染拡大の諏訪地方への影響

新型コロナウイルス感染拡大は依然として、諏訪地方の企業の大きな懸念材料となっている。回答全社は「3ヶ月前」に比べ、90.3%の企業が「多大」または「多少」の影響とした。ただ、「多大」とする企業は前回の52.4%から28.2%へ減少し、やや受け止め方が異なってきている。前回100%の企業が「多大」な影響とした観光・サービス業も今回、38.5%に減少した。政府の観光需要喚起策や自治体などの支援策で人が動き、経済活動が再開されたことで、企業の業況に回復の兆しが見られる。ただ、新型コロナウイルスは根本的に解決したわけではなく、再拡大の動きもあることから、先行きを慎重に見る企業は多い。「3ヶ月後」の業況予想で「多大」とする企業は、製造業が今回の33.3%から24.6%へ減少する一方で、観光・サービス業は38.5%から69.2%へ再び増加している。回答全社では、94.3%が「多大」または「多少」の影響が続くとみている。

産業別業況表

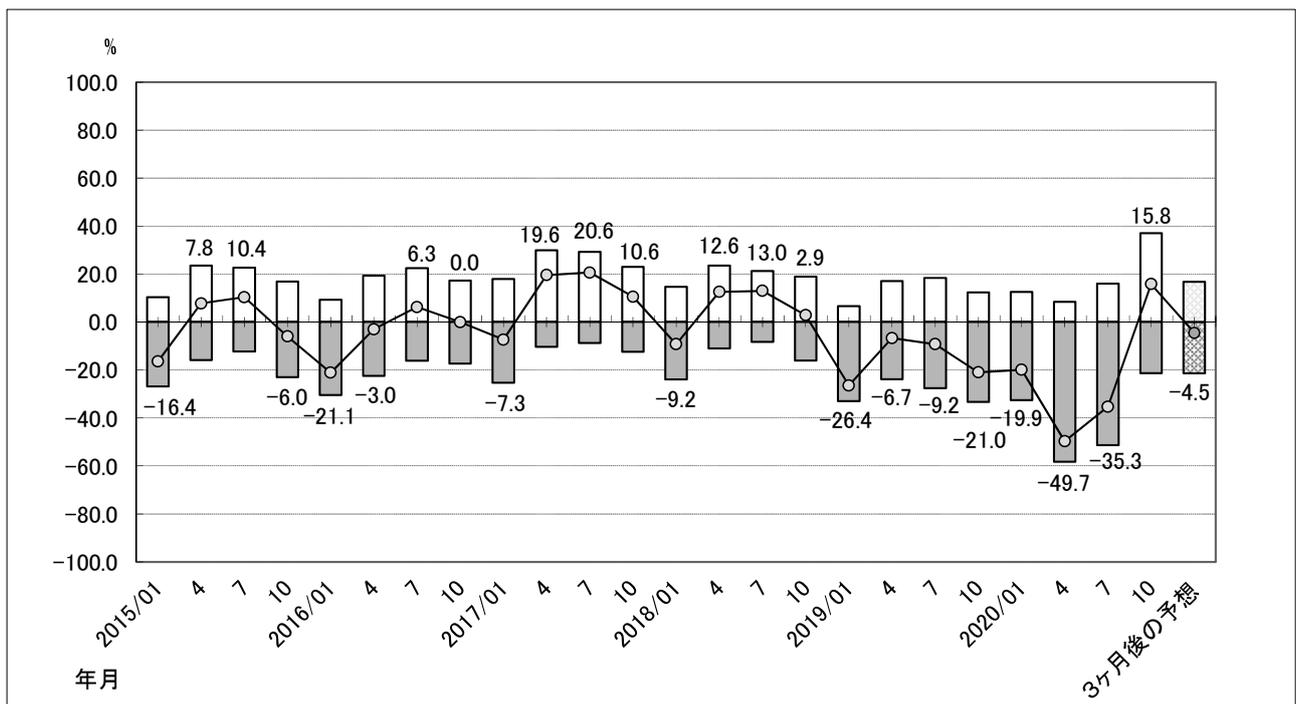
(企業数・%) 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	197	37.1	41.6	21.3	15.8	197	10.7	31.0	58.4	-47.7	197	16.8	61.9	21.3	-4.5
製造業	126	36.5	36.5	27.0	9.5	126	8.7	23.8	67.5	-58.8	126	19.8	61.9	18.3	1.5
非製造業	71	38.0	50.7	11.3	26.7	71	14.1	43.7	42.3	-28.2	71	11.3	62.0	26.8	-15.5
商業	34	38.2	47.1	14.7	23.5	34	20.6	29.4	50.0	-29.4	34	17.6	61.8	20.6	-3.0
建設業	24	16.7	70.8	12.5	4.2	24	8.3	62.5	29.2	-20.9	24	4.2	79.2	16.7	-12.5
観光・サービス	13	76.9	23.1	0.0	76.9	13	7.7	46.2	46.2	-38.5	13	7.7	30.8	61.5	-53.8

自社業況判断DIの推移

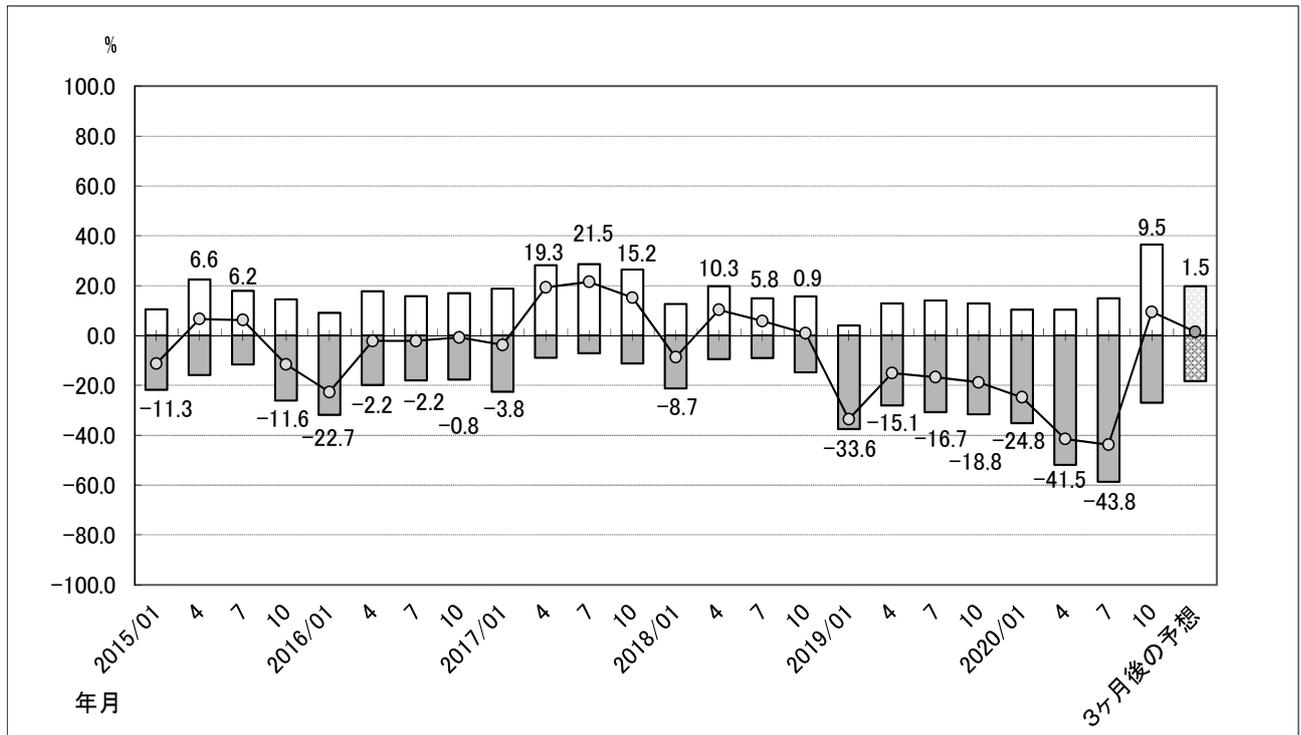
回答全社:「3ヶ月前」と比べて業況判断DIの推移

グラフ-1



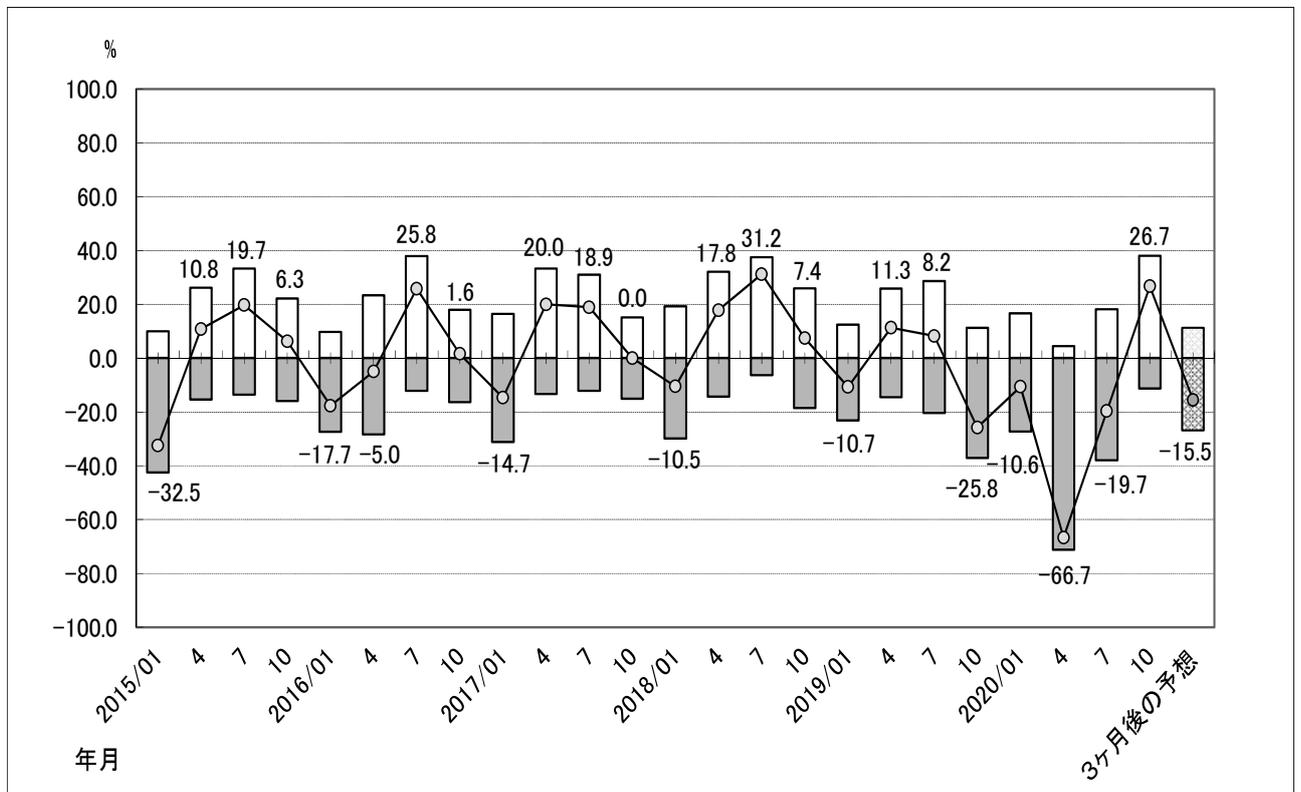
●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



産業別景気動向

1. 製造業

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べ9.5で、前回の△43.8から大幅に改善した。「前年同期比」は、△58.8で前回の△71.9からやや改善した。一方、「3ヵ月後」の予想は1.5で、前回の△23.9から改善した。

設備投資DIは、「3ヵ月前」に比べて△2.4で前回の△12.4から改善した。しかし、「前年同期比」は前回の△14.9から△17.5へ悪化した。「3ヵ月後」の予想DIは好転予想の企業が増えて4.8で、前回の△14.9から改善している。

収益性DIは、「3ヵ月前比」で△1.6と前回の△43.0から41.4ポイント改善し、「前年同期比」は前回の△61.9から△50.0へ11.9ポイント改善した。一方、「3ヵ月後」の予想は△2.4で、前回の△23.2から改善した。

業種別(主要5業種)の業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて、「金属製品」は5.8(前回△59.4)、「電気機械」が△4.3(同△36.3)、「一般機械」が3.5(同△36.7)、「輸送用機械」は69.2(同△50.0)、「精密機械」が7.2(同△50.0)といずれも大幅改善した。

「前年同期比」では、前回好転企業がなかった「精密機械」は△64.3(前回△100)、「輸送用機械」は△46.1(同△100)と改善した。また、「金属製品」が△73.5(同△87.5)、「電気機械」は△39.2(同△63.7)と低調ながら回復したが、「一般機械」は△60.8(同△40.0)と悪化した。

「3ヵ月後」の予想DIは「金属製品」は△2.9(前回△9.3)、「一般機械」は0.0(同△43.3)、精密機械14.3(同△25.0)、「電気機械」0.0(前回△40.9)と改善したが、「輸送用機械」が7.7(同33.4)で悪化した。

このほかの製造業では、漬物は引き続き、内食需要の高まりで、好調を維持している。初夏の天候不順の影響でキュウリは価格が高騰している。みそは、需要期に入り順調な出荷で、新型コロナウイルスの影響はほとんどなく例年通りの動きとなっている。寒天は、去年は暖冬で生産量が少なく、在庫が限られた。今年は昨年より早く寒さが厳しくなっているため、製造は例年より早く始まる見込み。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	126	36.5	36.5	27.0	9.5	126	8.7	23.8	67.5	-58.8	126	19.8	61.9	18.3	1.5	
規模	1～29人	65	35.4	33.8	30.8	4.6	65	9.2	24.6	66.2	-57.0	65	15.4	63.1	21.5	-6.1
	30～99人	44	31.8	36.4	31.8	0.0	44	6.8	20.5	72.7	-65.9	44	22.7	61.4	15.9	6.8
	100人～	17	52.9	47.1	0.0	52.9	17	11.8	29.4	58.8	-47.0	17	29.4	58.8	11.8	17.6
分類	金属製品製造業	34	38.2	29.4	32.4	5.8	34	5.9	14.7	79.4	-73.5	34	14.7	67.6	17.6	-2.9
	一般機械器具製造業	28	32.1	39.3	28.6	3.5	28	7.1	25.0	67.9	-60.8	28	28.6	42.9	28.6	0.0
	電気機械器具製造業	23	26.1	43.5	30.4	-4.3	23	13.0	34.8	52.2	-39.2	23	17.4	65.2	17.4	0.0
	輸送用機械器具製造業	13	76.9	15.4	7.7	69.2	13	7.7	38.5	53.8	-46.1	13	23.1	61.5	15.4	7.7
	精密機械器具製造業	14	42.9	21.4	35.7	7.2	14	14.3	7.1	78.6	-64.3	14	14.3	85.7	0.0	14.3

① 諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

● 金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて5.8で、前回調査時の $\Delta 59.4$ から大幅改善した。「前年同期比」は $\Delta 73.5$ で前回の $\Delta 87.5$ よりやや改善した。「3ヵ月後」の予想は $\Delta 2.9$ で前回の $\Delta 9.3$ から改善した。海外向けが持ち直している自動車部品関連を中心に、総体的に受注が回復傾向となり、コロナ前の水準に戻った企業もある。ただ、一部で大幅なコストダウン要請もある。

● 一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて3.5で、前回の $\Delta 36.7$ から改善したが、「前年同期比」は $\Delta 60.8$ で、前回の $\Delta 40.0$ から悪化した。「3ヵ月後」の予想は0.0で、前回の $\Delta 43.3$ から改善している。企業の設備投資が抑えられ、総体的に省力化機械の受注は低調だが、受注には至らないものの、各種自動機や省力化機器への引き合いが増加し、回復の兆しが見られる。半導体製造装置の部品受注は高水準で推移している。医療関連では、先送りになっていた案件が動き出した専用機もある。

● 電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて $\Delta 4.3$ で、前回の $\Delta 36.3$ から改善し、「前年同期比」は $\Delta 39.2$ で前回の $\Delta 63.7$ から改善した。「3ヵ月後」の予想は0.0で前回の $\Delta 40.9$ から改善した。5G関連の光通信基地局部品の受注は安定し、増産要請が続いている。プリント基板は低調に推移している。米国大統領選挙の結果による米中関係の変化で、間接的な影響を懸念する企業が多い。

● 輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて69.2で、前回の $\Delta 50.0$ から大幅改善し、「前年同期比」は $\Delta 46.1$ で、前回の $\Delta 100$ から改善した。一方、「3ヵ月後」の予想は7.7で、前回の33.4から悪化した。自動車部品関連はメーカーによって回復力が異なるが、急速に回復するメーカーがけん引している。ただ、欧米の新型コロナウイルス再拡大の影響が懸念されている。船外機は、在庫調整の終了や北米需要の増大で急激に受注が回復している。自転車は欧州の需要が大幅に増加している。

● 精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて7.2で、前回の $\Delta 50.0$ から大幅に改善した。「前年同期比」は $\Delta 64.3$ で $\Delta 100$ だった前回より改善した。「3ヵ月後」の予想は14.3で前回の $\Delta 25.0$ から改善した。医療関連やATM監視カメラなどの高性能レンズの受注は好調だが、ミラーレスカメラの交換レンズ需要は低調。計量器はコロナ禍や在庫調整などの要因が重なり、総体的に売上は低調に推移している。

② 規模別業況

業況判断DIは、「3ヵ月前」と比べて「1~29人」規模は前回の $\Delta 40.8$ から4.6へ改善し、「30~99人」規模は前回の $\Delta 51.4$ から0.0へ改善した。「100人以上」規模は前回の $\Delta 38.4$ から52.9へ大幅改善した。

「前年同期比」は「1～29人」規模が前回の△74.7から△57.0へ改善し、「30～99人」規模も前回の△70.3から△65.9へ改善した。「100人以上」規模も、前回の△61.5から△47.0へ改善した。一方、「3ヵ月後」の予想は、「1～29人」規模が前回の△22.5から△6.1へ改善し、「30～99人」規模は前回の△43.3から6.8へ改善した。「100人以上」規模は前回の23.1から17.6へやや悪化した。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3ヵ月前」と比べて受注状況DIは「増加」企業42.9%、「減少」企業31.0%で11.9と、前回調査時の△51.2から大幅改善した。「前年同期比」は△66.7で前回の△72.8から改善した。「3ヵ月後」の予想も前回の△24.0から1.6へ改善した。

規模別の受注状況DIは、「3ヵ月前」と比べて「1～29人企業」は△3.1で前回の△53.5から改善し、「30～99人企業」も15.9で前回の△46.0から改善した。「100人以上企業」は58.8で前回の△53.8から大幅に改善した。「前年同期比」は「1～29人企業」が△73.9で前回の△73.3とほぼ同様で、「30～99人企業」は△59.1で前回の△73.0から改善した。「100人以上企業」も△58.8で前回の△69.2から改善した。「3ヵ月後」の予想は「1～29人企業」が△1.5で前回の△18.3から改善し、「30～99人企業」も2.2で前回の△54.1から改善したが、「100人以上企業」は11.8で前回の30.8から悪化した。

業種別(主要5業種)の「3ヵ月前比」は、「精密機械」が前回の△66.7から7.2、「輸送用機械」が△50.0から69.2、「電気機械」は△45.4から0.0、「一般機械」は△46.7から3.6、「金属製品」が△65.6から3.0へそれぞれ改善した。「前年同期比」では、「輸送用機械」が△100から△46.1、「金属製品」が△90.6から△82.4、「電気機械」は△68.2から△39.1と水面下ながら改善したが、「一般機械」は△53.3から△75.0、「精密機械」は△75.0から△71.5、へ悪化した。「3ヵ月後」の予想は、「金属製品」が前回の△9.4から△8.9、「一般機械」が△50.0から3.5、「電気機械」が△36.4から4.3、「精密機械」は△25.0から7.2へ改善し、「輸送用機械」は41.7から15.4へ悪化した。

業種別・規模別受注状況表

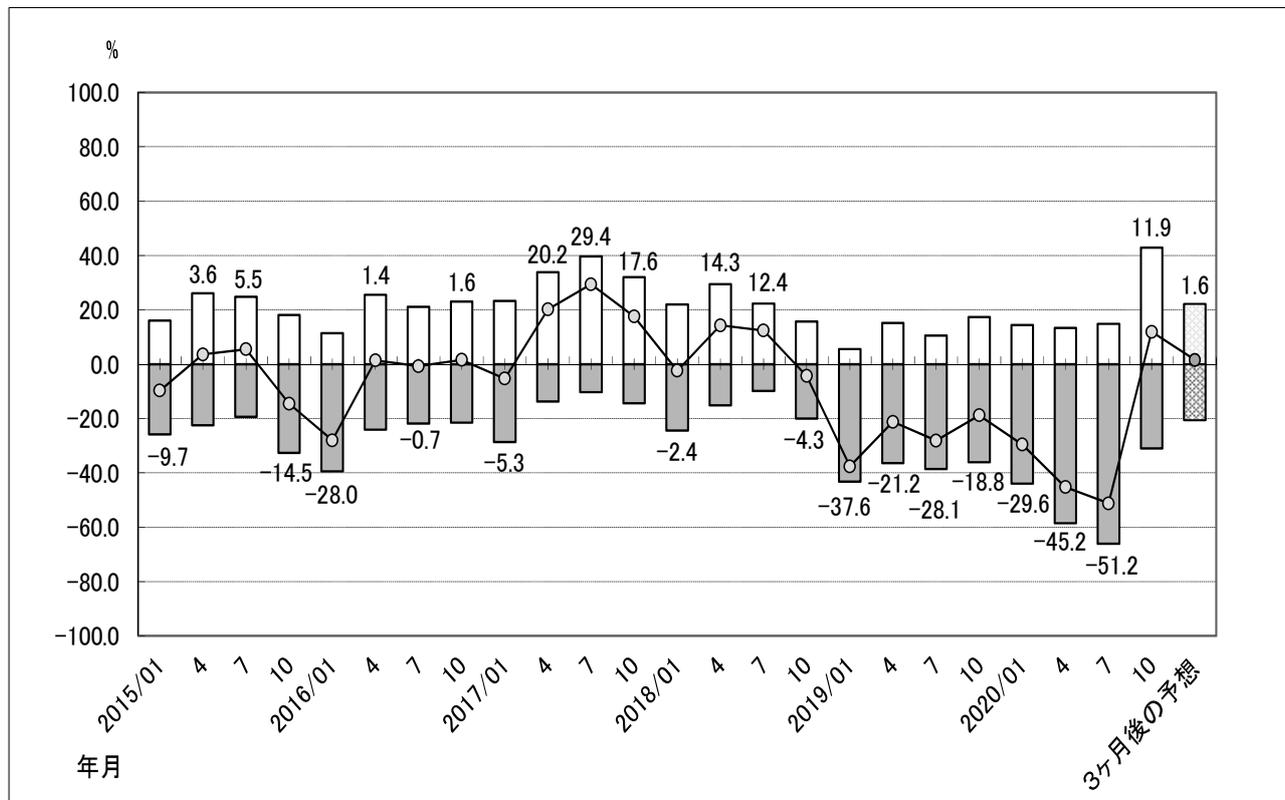
表-3

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	126	42.9	26.2	31.0	11.9	126	6.3	20.6	73.0	-66.7	126	22.2	57.1	20.6	1.6	
規模	1～29人	65	33.8	29.2	36.9	-3.1	65	4.6	16.9	78.5	-73.9	65	20.0	58.5	21.5	-1.5
	30～99人	44	47.7	20.5	31.8	15.9	44	6.8	27.3	65.9	-59.1	44	22.7	56.8	20.5	2.2
	100人～	17	64.7	29.4	5.9	58.8	17	11.8	17.6	70.6	-58.8	17	29.4	52.9	17.6	11.8
中分類	金属製品製造業	34	41.2	20.6	38.2	3.0	34	2.9	11.8	85.3	-82.4	34	17.6	55.9	26.5	-8.9
	一般機械器具製造業	28	39.3	25.0	35.7	3.6	28	0.0	25.0	75.0	-75.0	28	32.1	39.3	28.6	3.5
	電気機械器具製造業	23	34.8	30.4	34.8	0.0	23	17.4	26.1	56.5	-39.1	23	21.7	60.9	17.4	4.3
	輸送用機械器具製造業	13	76.9	15.4	7.7	69.2	13	7.7	38.5	53.8	-46.1	13	23.1	69.2	7.7	15.4
	精密機械器具製造業	14	42.9	21.4	35.7	7.2	14	7.1	14.3	78.6	-71.5	14	14.3	78.6	7.1	7.2

製造業の受注状況DIの推移

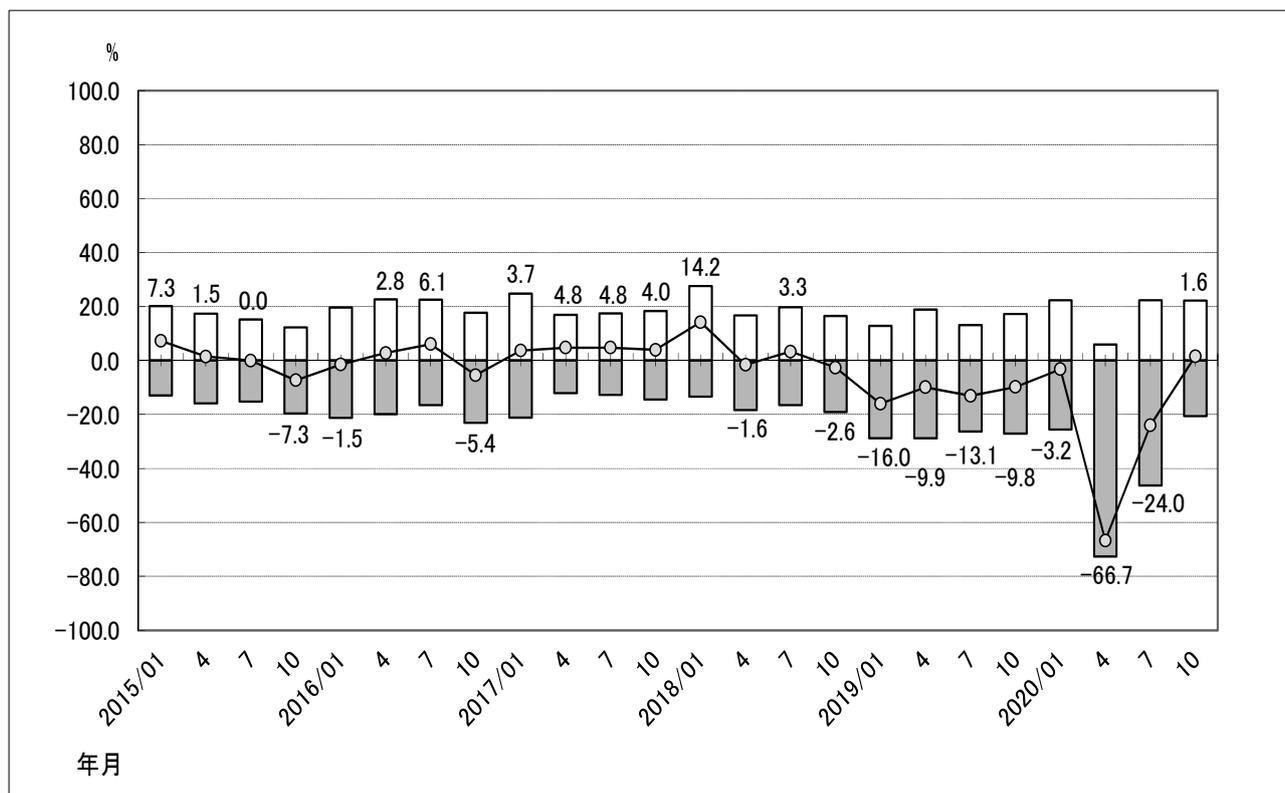
●製造業全社:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



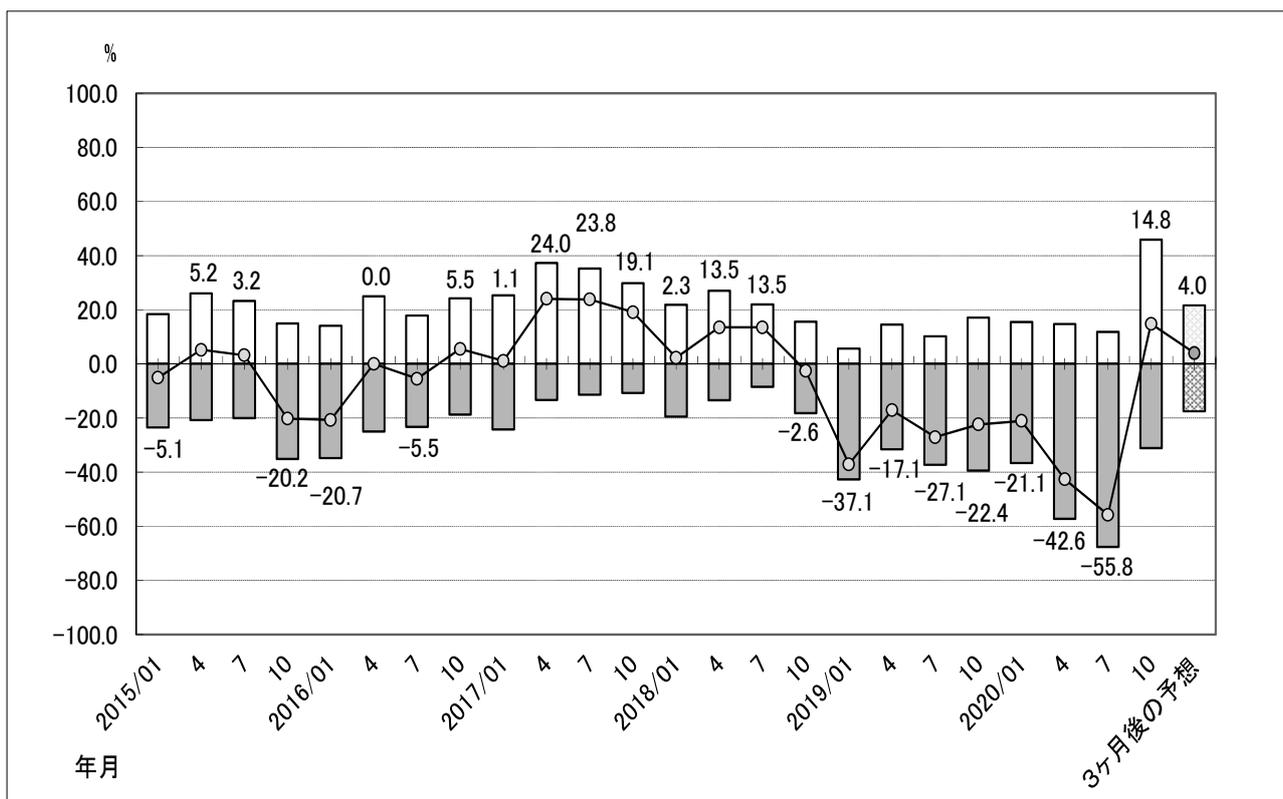
●製造業全社:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



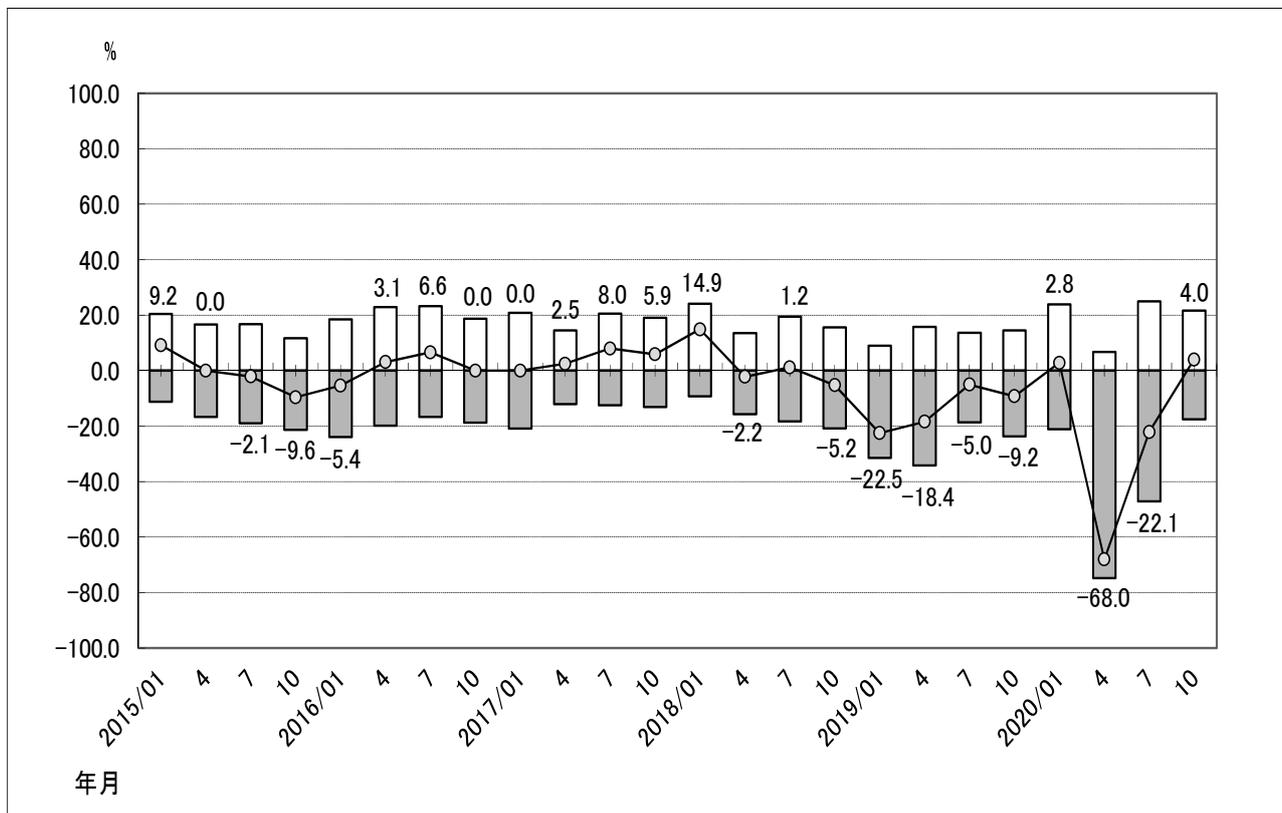
●製造業 主要5業種:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

① 商業

「3ヵ月前」との比較で、売上DIは29.4と、前回の△42.9から改善した。ステイホームで需要がある食料品などが好調な一方、集客が必要なイベントホールや飲食店などは苦戦が続き、明暗が分かれている。10月公開のアニメ映画「劇場版鬼滅の刃 無限列車編」が大ヒットし、映画館や書店などが売上を伸ばした。

- 大型店 来店客数は減少しているが、購入の単価や点数が増加している。各自治体のプレミアム付商品券などの利用が多い。
- 自動車 諏訪地方の10月の車庫証明件数(軽自動車除く)が957件で、前年同月比では123件増加(14.8%)した。10月の国内新車販売台数は、13ヵ月ぶりに前年同月比増加した。
- 書店 鬼滅の刃のコミックを全巻(1~22)買いそろえるファンが多く、関連商品とともに売れ行きが伸びた。GoToトラベルの影響で、地図やガイドブックも売れている。
- エネルギー ガソリンは県外車の増加で前年を上回った。ガスは商業用の販売量が減少している。
- 家電 パソコンやプリンターなど情報系家電の需要が高い。コロナ禍で年賀状の販売枚数が昨年を上回り、インクカートリッジなどプリンターの消耗品の増加が予想される。
- 野菜直売所 キノコは全般的に不作で、マツタケは平年の2倍の価格だった。

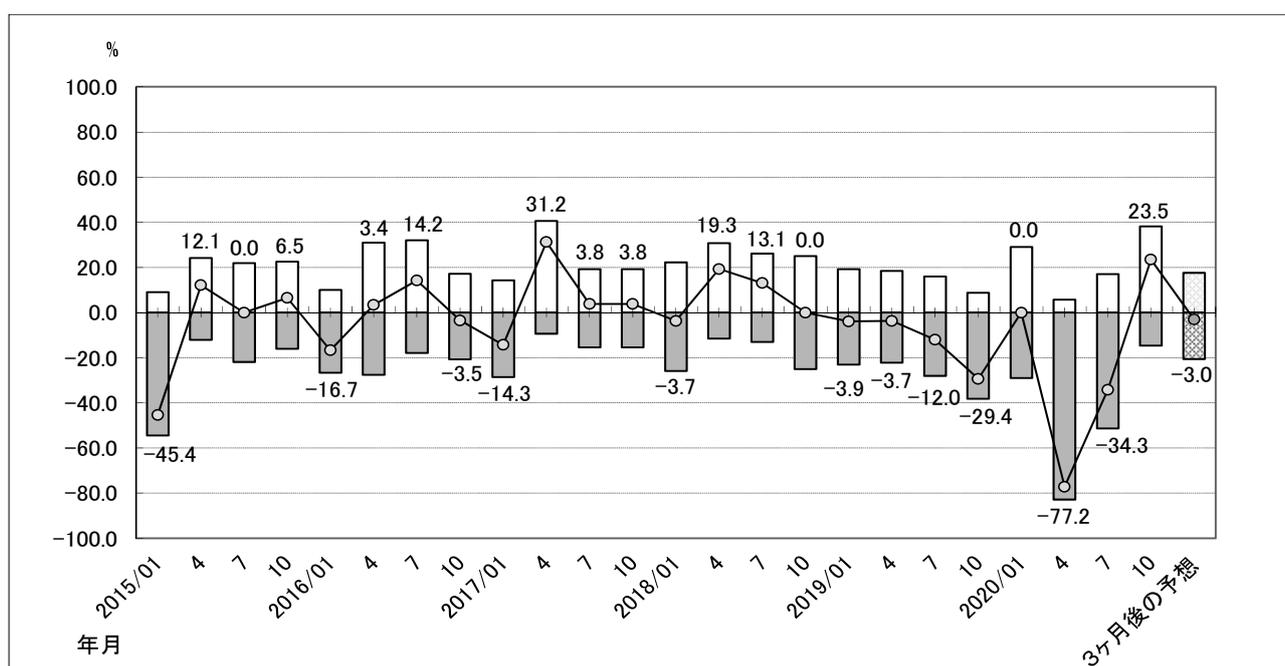
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	34	38.2	47.1	14.7	23.5	34	20.6	29.4	50.0	-29.4	34	17.6	61.8	20.6	-3.0
客単価	34	23.5	61.8	14.7	8.8	34	17.6	55.9	26.5	-8.9	34	14.7	73.5	11.8	2.9
来店客数	34	41.2	41.2	17.6	23.6	34	11.8	32.4	55.9	-44.1	34	14.7	58.8	26.5	-11.8

●商業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



② 観光・サービス業

前回は、本格的な観光シーズンにもかかわらず、「前年同期比」で業況が悪化企業のみという異例の状態だったが、それに比べると今回は格段に改善している。国や市町村などの支援策で人の移動が生まれ、経済効果を出した。反面、新型コロナウイルスの感染再拡大の傾向も見られ、先行きに警戒感がある。3カ月前に比べて大幅にプラス水準になった業況は、3カ月後には季節要因もあり大幅なマイナス水準が予測されている。

- 上諏訪温泉 GoTo トラベルの東京解禁、県のディスカバー信州第2弾、安定した気候などで宿泊施設は連日にぎわった。県内小中学校の研修・学習旅行を主体とする修学旅行もあった。宿泊者の増加で人手不足が生じた施設もあった。
- 下諏訪温泉 小規模施設は家族単位の利用が多く、GoTo トラベルなどで稼働率は高かった。
- 蓼科・白樺湖 道の駅「ビーナスライン蓼科湖」の駐車場は平日でもかなりにぎわった。去年は台風による停電被害があったが、今年の集客は好調で、前年同月比100%を超えた施設が多い。GoTo トラベルや各種割引を利用した高級志向が見られる。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた10月の参拝者数は約6万5千人で、前年同月比約2千人増加(3.2%)した。

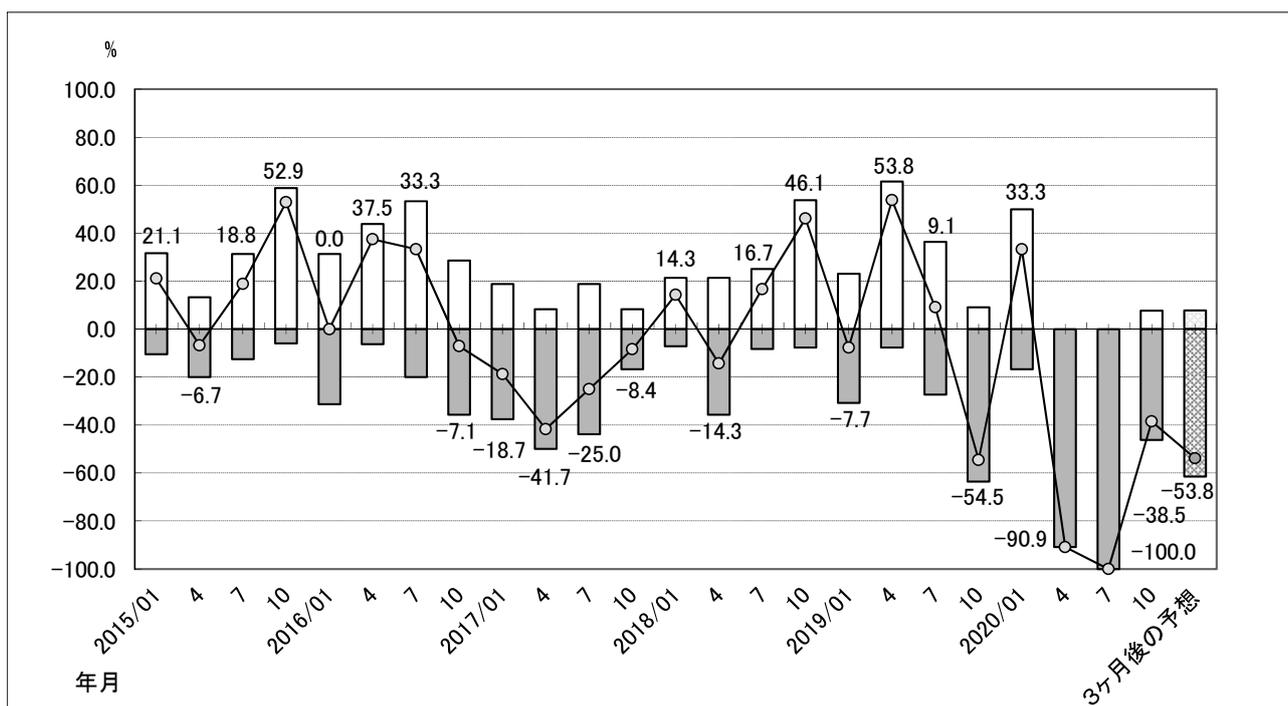
業況、売上、宿泊客

表-5

	3カ月前と比べて					前年同期と比べて					3カ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	13	76.9	23.1	0.0	76.9	13	7.7	46.2	46.2	-38.5	13	7.7	30.8	61.5	-53.8
客単価	13	53.8	38.5	7.7	46.1	13	30.8	38.5	30.8	0.0	13	15.4	46.2	38.5	-23.1
宿泊客数	13	69.2	15.4	15.4	53.8	13	15.4	23.1	61.5	-46.1	13	7.7	23.1	69.2	-61.5

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



3.建設業

受注状況DIは「3ヵ月前」と比べ、前回の△20.0 から△4.1 へ改善し、「前年同期比」も前回の△50.0 から△29.1 へ改善している。外注発注量DIは「3ヵ月前」と比べ、△30.0から4.2 へ改善している。「3ヵ月後」の予想DIは、受注状況が△16.7で前回の△50.0から改善し、業況判断も△12.5で前回の△35.0から改善した。諏訪地方の2020年4月～9月の新設住宅着工戸数は持家337戸、貸家91戸、分譲32戸、給与118戸で合計578戸となり、前年同期比で49戸、7.8%減少した。

●建築工事

諏訪地方の2020年9月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市26戸、諏訪市13戸、茅野市19戸、諏訪郡19戸の合計77戸だった。長野県全体の9月の新設住宅着工戸数は917戸で、前年同月比3.7%増加した。持家は12ヵ月ぶり、貸家は3ヵ月ぶりに増加した。

●公共工事

2020年10月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、9件439百万円だった。また、市町村からの受注工事は、建築工事1件35百万円、土木・水道工事57件508百万円、その他工事10件55百万円だった。

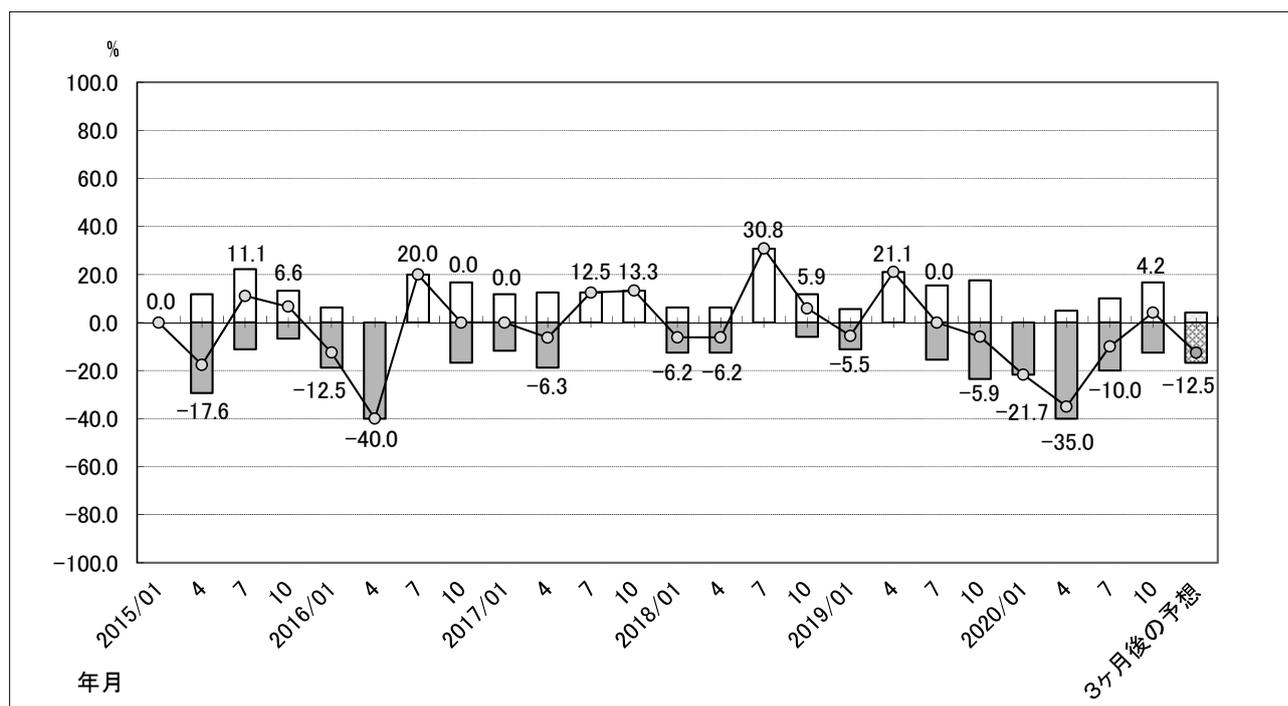
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	24	16.7	70.8	12.5	4.2	24	8.3	62.5	29.2	-20.9	24	4.2	79.2	16.7	-12.5
受注状況	24	29.2	37.5	33.3	-4.1	24	16.7	37.5	45.8	-29.1	24	8.3	66.7	25.0	-16.7
外注発注量	24	29.2	45.8	25.0	4.2	24	16.7	41.7	41.7	-25.0	24	4.2	70.8	25.0	-20.8

●建設業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-10

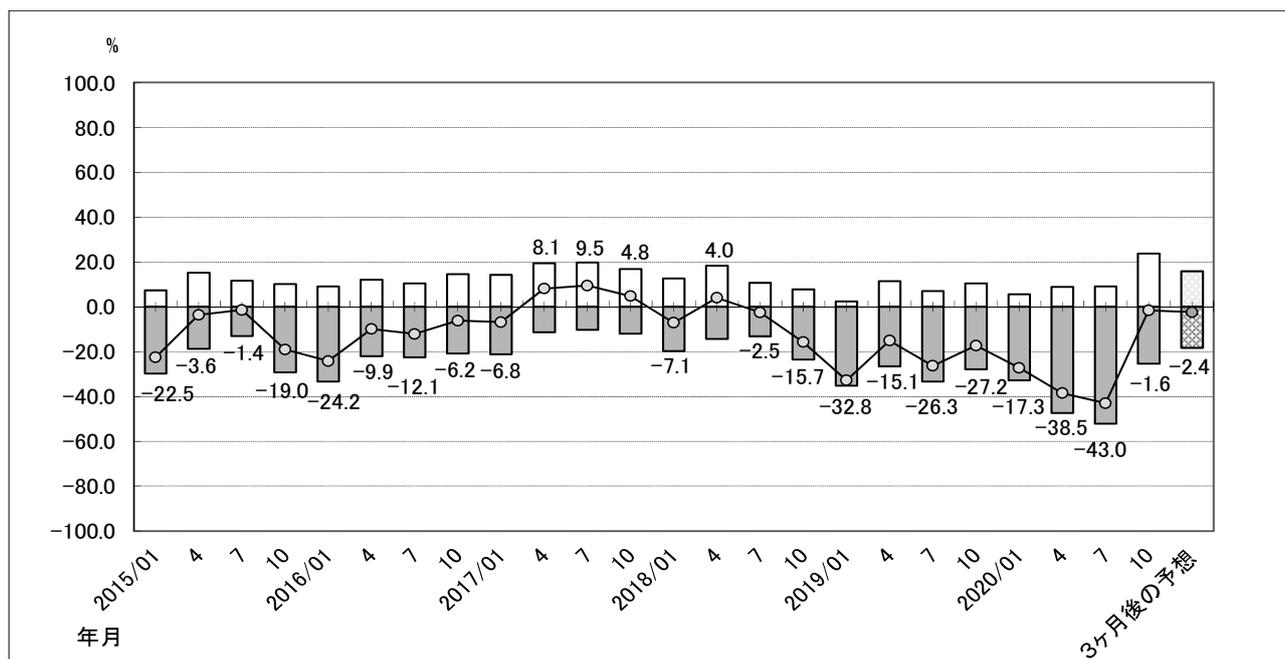


4.収益性状況

回答全社の「3ヵ月前」と比べた収益性は「好転」企業 23.9%、「悪化」企業 22.3%で、同DIは 1.6 と前回調査時の△37.9 から改善した。製造業は△1.6 で前回の△43.0 から 41.4 ポイント改善し、非製造業も 7.0 で前回の△28.8 から 35.8 ポイント改善している。また、回答全社の「前年同期比」は△43.7 で、前回の△58.8 より改善している。「3ヵ月後」の予想DIは、製造業が△2.4 で前回の△23.2 から改善し、非製造業も△15.5 で前回の△37.9 から改善している。回答全社では△7.1 となり、前回の△28.3 から改善予想が多くなっている。

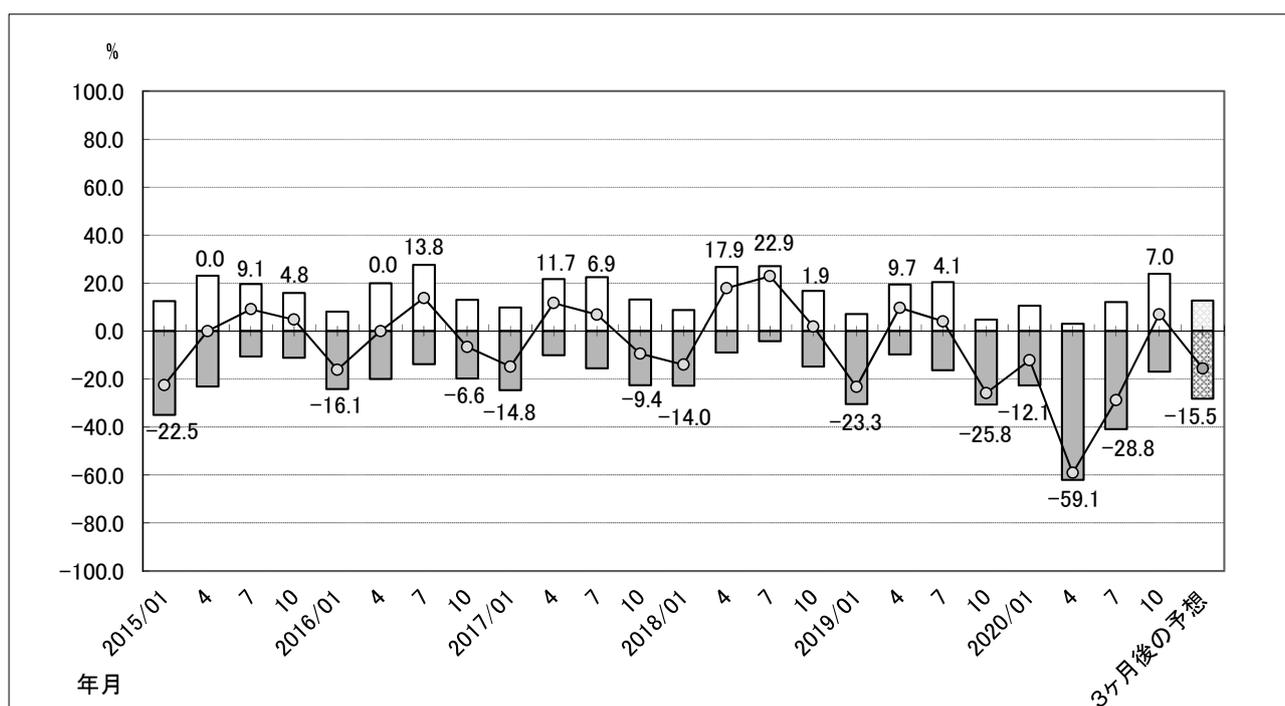
●製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は売上減少と資金繰り②商業は売上減少と労働力確保③建設業は売上減少と労働力確保④観光・サービス業は売上減少と資金繰り、人件費となっている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	127	91	17	12	7
単価引下げ	22	16	2	2	2
競争激化	45	26	10	8	1
資金繰り	47	32	5	5	5
人件費	40	22	8	5	5
労働力確保	57	21	16	17	3

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率【9月】	ハローワーク諏訪	1.02倍	△0.50ポイント
手形交換高【10月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	2,609枚	△1,432枚
	金額	3,774百万円	△2,533百万円
	うち不渡り発生状況	0枚	△1枚
	金額	0千円	△1,550千円
車庫証明取扱件数【10月】(諏訪地方合計)		957件	14.8%
新設住宅着工戸数【2020年4月～9月】(諏訪管内)		578戸	△7.8%

7.調査概要

DI調査:業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 2020年10月。
- ② 調査内容 「2020年10月時点」の実績と、「3ヵ月前」と「前年同期」の業績比較および「3ヵ月後」の予想。
- ③ 調査方法 DI調査および約130社のヒアリング調査。
- ④ 回答企業数 197企業。
- ⑤ 回答率 78.8%。

DI調査状況

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	160	40	30	20	250
回答数	126	34	24	13	197

米大統領選挙はバイデン氏勝利で決着しようとしています。米国独特の制度とともに、米国の雇用状況を見るとトランプ氏の敗因が浮き彫りになります。

まず、米国独特の制度で日本人がなかなか理解するのが難しいのが「州」という仕組みです。

私は、若い頃に米国のビジネススクールで2年過ごしました。ニューハンプシャー州という東海岸の北のほうの小さな州でしたが、その州では消費税がありませんでした。他の州から買い物にくる人も多くいました。その分、財産税(固定資産税)が高いのです。また、州には軍隊もあり、州は「国(state)」なのです。もちろん、大統領選挙の選挙人の選び方も州ごとに違います。米国では、州知事は非常に強い権限を持ち、日本では知事が総理大臣になることはまずないのですが、米国では州知事が大統領に選ばれることも少なくありません。



そして、米国人は、宗教的、理念的である一方、「超」がつくくらいに現実的です。

私が米国に住んでいた際に、大統領選挙があり、米国人の友達は「選挙の時の自分の懐具合を見て、どの候補に投票するかどうかを決める人も少なくない」と言っていました。いつの大統領選挙でもその傾向はあります。今回の選挙でも、コロナによる景気後退、とくに雇用情勢の悪化が大統領選挙を決した部分もあると思っています。

トランプ氏就任後の2017年から2019年までの3年間は経済は比較的順調でした。GDPの実質成長率も2%台を確保していました。そして、国民には大きな関心事である雇用も堅調でした。

表は、世界中のエコノミストたちが常に注目する「非農業部門の雇用増減数」です。

トランプ大統領が就任した2017年から2019年までの3年間で660万人の増加です。毎年200万人以上増加しています。格差拡大の問題はあるものの、雇用は堅調だったと言えます。失業率も3%台まで低下しました。転職の多い米国では、完全雇用の状態です。経済も雇用も堅調だったのです。

年	増減数
2017年	215.3
2018年	231.4
2019年	213.3
合計	660.0

それが、新型コロナウイルスの蔓延により、状況が一転したのです。

表で、今年の3月、4月の数字を見るととても大きく下がっています。コロナ以前は年間200万人以上の雇用増加を長年にわたって続けてきたわけですが、それがコロナ後2カ月間で一気に2200万人ほど減少してしまったわけです。

2020年	
1月	21.4
2月	25.1
3月	-137.3
4月	-2078.7
5月	272.5
6月	478.1
7月	176.1
8月	149.3
9月	67.2
10月	63.8
合計	-962.5

米労働省(万人)

もちろん、米国では、日本と雇用についての考え方が違い、企業は「レイオフ(一時帰休)」という形で、比較的簡単に従業員を解雇できます。日本では、雇用調整助成金のような形で、失業を極力減らし、企業内に実質的な失業者をとどめる考え方ですが、米国では、企業負担を極力減らすために、解雇を認め、その代わりに失業給付などで政府が失業者を保護するという政策が採られます。

その後、景気が回復するに従い、企業は、レイオフした人の再雇用に向かっていますが、3月、4月で失った雇用のせいで、いまだにコロナ前と比べて1000万人ほどの雇用が減少したままなのです。

失業給付が普段より多く出ると言っても、それがいつまで続くかも分からず、大きな不安を抱えていては、やはり政権への批判は高まります。

前回の2016年の大統領選挙では、長い間民主党支持者が多かったミシガン州などの「ラストベルト：錆びた地帯」で共和党のトランプ氏が勝利しました。ミシガン州は自動車の街デトロイトのある州です。今回の選挙では、ミシガン州では、バイデン候補が勝ちました。コロナの影響があり、雇用情勢が大きく変化したのです。

バイデン氏はコロナに助けられた側面があるものの、コロナが拡大の勢いを見せている中で、当面はコロナ対策と経済対策という難しいかじ取りを迫られることとなります。もちろん、米国経済の状況が日本経済にも大きな影響を及ぼすことは間違いありません。

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は
諏訪信用金庫 総務部へ
電話 0266-23-4567